

ある日の通勤電車の中で、高校生二人が携帯電話を見せあいながら、話をして居るのが聞こえてきました、一人の高校生が新しく携帯電話を買ったらしく、もう一人の高校生に新しい携帯電話の機能を説明していました。

そして、説明を受けている高校生が、「その携帯はアンテナが無いの?」と聞きました、説明をしている高校生が「最近の携帯電話はアンテナが外に出る様なダサイデザインじゃないよ、中にあるんだ」といっていました。

携帯電話も無線送受信機なのでアンテナは外にあった方が、効率が良いし、デザインも格好良いと思うのは、無線オジサンの私だけでしょうか?

無線オジサンと一般の人との、アンテナに関する感覚には違いがある様です。

20年位前に、職場の人達と小旅行に車で出かけた時、連絡用に144MHZのハンディー機（IC-2N）を使用しました。

そして、IC-2Nのアンテナを見て「このトランシーバーのアンテナ小さくてカッコイイですね」、と云われた事があります。

15cm位のヘリカルアンテナがIC-2Nのデザインにマッチしていた事もあると思うのですが、「アンテナが小さくてカッコイイ」と云う感覚は、無線オジサンにとっては違和感がありました。また、職場の人に無線のライセンス取得を勧め、ライセンス取得後に無線機購入の相談を受けた時も、コンパクトなハンディー機と小さなアンテナが購入の選択条件でした。

無線オジサンは27MHzのトランシーバーに付いていた、1.8m位の長いアンテナが付いて、本体は電話の受話器より大きい方が好みでした。

「チェットキング2」「こちらホワイトロック」どうぞ。

240各局この台詞を覚えていますか？

(本当はホワイトルークで誤ってホワイトロックと吹き替とか)そう、1962年から1967年に掛けて放送されたTVドラマのコンバットのワンシーンです。

そこに登場する、無線機は第2次大戦当時の携帯型トランシーバーとハンディートランシーバでした。携帯型トランシーバーと云っても、リトルジョン上等兵が主に背負っていた、ランドセル位の大きさのトランシーバーはBC1000で、ハマーランド社製の40-48MHz 出力300Mw、電池込みで15kだそうです。そして、1.5m位のアンテナをブラブラさせながら歩く姿が放送されていました。

また、ハンディーはBC611で3.5-6MHz、500Mwで1.1mのロットアンテナを延ばすと電源が入る仕組みで、使用する時には、「サンダース軍曹」がアンテナを伸ばして「ヘンリー少尉」に向けて、「チェットキング2」「こちらホワイトロック」どうぞ。とやっていました。

更に、ジープに付けたアンテナは1.5mから2m位あり、長いアンテナは当時からカッコイイと思っていました。

今も、アンテナは長い方が良いと思います。

ひと昔前の車に付いているラジオ用のアンテナは、ロットアンテナ式が支流で前後のフェンダー部に1m位の物が付いていました。最近のアンテナはリヤウインドガラスの中に埋め込まれている物や、外部アンテナでも豚の尻尾みたいな、短いアンテナが多く見られます。

昨年9月に買い替えた車も、ラジオアンテナはリヤウインドガラスにカーナビとTV用アンテナはフロントウインドウガラスに埋め込まれていて、アンテナの存在を隠しているようです。

これが、一般受けするデザインなのでしょうね。

無線オジサンとしては、車に取り付けるアンテナは 1m 以上無いと良いデザインとは思えないし、やはり 2m 位あるアンテナが車に取り付ける場合一番カッチイ！！と思う。

あのコンバットに出てくる様な、ジープのバンパーに大きなスプリング基台に碍子を嵌め込み 1.5m位のアンテナをゆらゆらさせながら、走る姿が理想のモバイルアンテナデザインです。

モバイルに 50MHz の $5/8$ λ のアンテナを取り付けた 240 各局には賛同頂ける事と思います。

買い替えた我が車にも、モバイルアンテナを取り付けなければならないのですが、前の車の様にトランクリットに 2 個の基台を付けて、50M の $3/8$ と 144M/430M の $5/8$ を付けたいのですが、デザイン推奨の XYL との交渉は難航していました。

とりあえずのアンテナとしては、マグネット基台に 50M の $1/4$ の短縮 (1m) と 100 円均一で探したマグネットクリップに BNC コネクターを取り付けて、430M のハンディー機付属の $1/4$ (0.12m) を QRV する時に取り付けられる様にしました。

暫くは、大人しく一般受けする小型アンテナで、QRV しますので、各局宜しくお願いします。

マグネットクリップに BNC



車に取り付けた基台



2009-03-30 記

おわり